

高砂香料工業株式会社

2026年3月期 決算説明会

証券コード:4914

2026年5月25日

目次

I. 事業概況(ハイライト)

II. 2026年3月期 通期業績

III. 2027年3月期 通期業績予想

IV. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

V. トピックス

VI. Appendix

I. 事業概況(ハイライト)

2026年3月期 事業概況および業績

【2026年3月期】 事業概況

- 海外では主要原材料価格は期首想定並みに推移。日本では当初計画に対し円安進行により輸入原料費が増加
- 日本はフレーバーが堅調に推移。中国は飲料関連、ファブリックケア関連の出荷が増加
- ファインケミカルでは、主要得意先との間で品質管理体制の高度化対応を行っており、海外医薬品中間体の出荷が延期（4Qより再開）
- 米国子会社では2024年3月期に新基幹システム導入後、2025年3月期に増加した出荷の反動でフレーバー・フレグランスの売上が減少
- フランス子会社で新基幹システム導入に伴う出荷調整によりフレグランスの出荷が減少

【2026年3月期】 業績

[単位：億円]	2025/3 実績	2026/3 実績	前期比	主な増減要因
売上高	2,292	2,251	△1.8%	<ul style="list-style-type: none">・ 米国子会社でフレーバー・フレグランス・ファインケミカルの出荷が減少・ フランス子会社でフレグランスの出荷が減少
営業利益	153	81	△47.0%	<ul style="list-style-type: none">・ 欧米向け医薬品中間体の輸出減により、日本本社で減益・ 米国子会社では減収に伴い減益
経常利益	153	95	△37.9%	<ul style="list-style-type: none">・ 営業利益減少に伴い減益・ 外貨建債権の評価替えは前期に対し良化（前期 為替差損、当期 為替差益）
当期純利益	133	95	△28.5%	<ul style="list-style-type: none">・ 経常利益減少に伴い減益・ 政策保有株式の縮減により、投資有価証券の売却益が前期に対し良化
期中平均 為替レートUSD	152円	150円	△1.2%	
期中平均 為替レートEUR	164円	169円	+3.1%	

2027年3月期 業績見通し及び配当

【2027年3月期】通期業績見通し

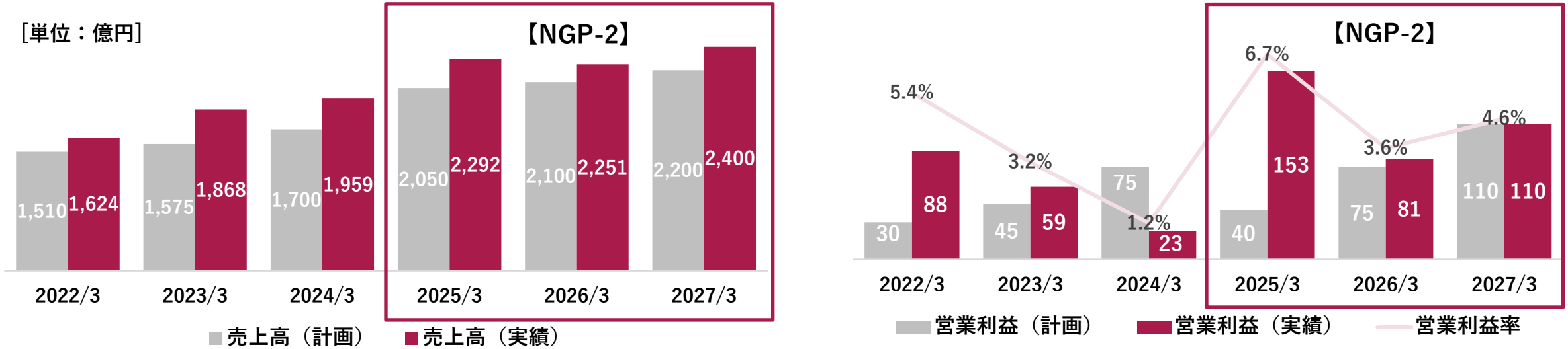
[単位：億円]	2026/3 実績	2027/3 予想	前期比	主な増減要因
売上高	2,251	2,400	+6.6%	<ul style="list-style-type: none"> フレーバーでは新興国向けの売上が増加 フレグランスではエアケア、ホームケアを中心に増加 米国子会社において医薬品中間体の出荷が増加
営業利益	81	110	+35.3%	<ul style="list-style-type: none"> 増収に伴い売上総利益が増加 欧米向け医薬品中間体の輸出増により、日本本社で増益
経常利益	95	115	+20.9%	<ul style="list-style-type: none"> 営業利益増加に伴い増益 外貨建債権の評価替えに係る為替差益は前期比減少
当期純利益	95	94	△ 1.3%	<ul style="list-style-type: none"> 投資有価証券売却益は前期比減少

【2027年3月期】通期配当予想

[単位：円]	2026/3 実績	2027/3 予想	補足情報
中間	120	26	<ul style="list-style-type: none"> 2026/3の中間は分割前の金額を記載
期末	28	26	<ul style="list-style-type: none"> 2025年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合をもって分割。2026/3の期末より分割後の金額を記載
年間	-	52	<ul style="list-style-type: none"> 2026/3の年間の配当は、単純合計ができないため、非表示 2027/3は、DOEは3.3%、配当性向53.9%
(参考：5分割後)	52	52	<ul style="list-style-type: none"> 2026/3の通期配当は分割前基準で260円、分割後基準で52円

中期3ヵ年経営計画【NGP-2】の取組み状況

[単位：億円]



■ 売上高	<ul style="list-style-type: none"> 2026年3月期は2,251億円。前期比減収だが、NGP-2計画2,100億円を上回る 2027年3月期は2,400億円を見込む。NGP-2期間の年間平均成長率 7.0% (為替レート同条件：5.5%)
■ 営業利益	<ul style="list-style-type: none"> 2026年3月期は81億円。前期比減益だが、NGP-2計画75億円を上回る。中計2年間累計は234億円 (計画比+119億円) 2027年3月期は110億円を見込む。中計期間累計は344億円
➤ 海外の成長	<ul style="list-style-type: none"> フレーバー：マルチナショナル顧客とのビジネス推進。東南アジアやアフリカ向けセイボリーが伸長。供給体制強化 フレグランス：ドバイ拠点設立を決定、高付加価値製品カテゴリーへ注力。中国や中南米のローカル顧客を開拓
➤ 国内の収益性改善	<ul style="list-style-type: none"> フレーバー・フレグランス：高付加価値領域で売上拡大したが収益性に課題有り。製品ポートフォリオ改善に注力 ファインケミカル：医薬品中間体に係る品質管理体制高度化対応により出荷時期の遅れ。新工場の安定稼働へ取組む
➤ サステナブルな経営	<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーンにおけるサステナビリティの推進 環境負荷の低い香料原料の開発を産学官共同によるプロジェクトで推進

II. 2026年3月期 通期業績

2026年3月期 通期業績

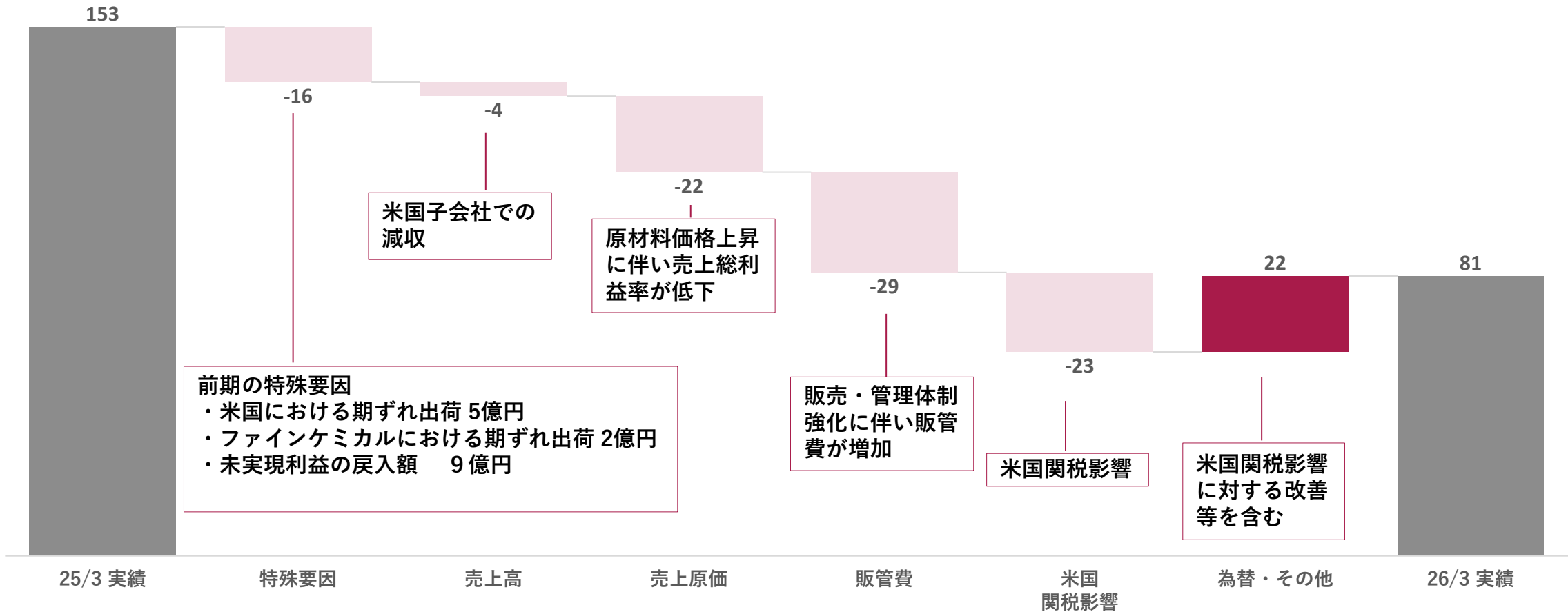
[単位：億円]	2025/3 実績	2026/3 実績	前期比	主な増減要因
売上高	2,292	2,251	△1.8%	売上高 ■ 2,251億円(△1.8%) ● 米国子会社でフレーバー・フレグランス・ファインケミカルの出荷が減少 ● フランス子会社でフレグランスの出荷減少
売上総利益 売上総利益率	774 33.8%	729 32.4%	△5.8% △1.4P	営業利益 ■ 81億円(△47.0%) ● 減収に伴い売上総利益は減少 ● 為替変動による調達コスト増および原材料価格上昇に伴い日本における売上総利益は減少
販売管理費 販売管理費率	621 27.1%	648 28.8%	+4.4% +1.7P	経常利益 ■ 95億円(△37.9%) ● 営業利益減少に伴い減益 ● 外貨建債権の評価替えは前期比良化
営業利益 営業利益率	153 6.7%	81 3.6%	△47.0% △3.1P	当期純利益 ■ 95億円(△28.5%) ● 経常利益減少に伴い減益 ● 政策保有株式の縮減により、投資有価証券売却益が前期に対し良化
経常利益 経常利益率	153 6.7%	95 4.2%	△37.9% △2.5P	
親会社株主に属する 当期純利益 純利益率	133 5.8%	95 4.2%	△28.5% △1.6P	
期中平均為替レート USD	152	150	△1.2%	
期中平均為替レート EUR	164	169	+3.1%	

2026年3月期 通期業績 営業利益の増減分析

[単位：億円]

増益

減益



※営業利益増減分析のうち、売上高・売上原価・販管費は同一の為替レート（前期実績）を適用して影響額を計算している

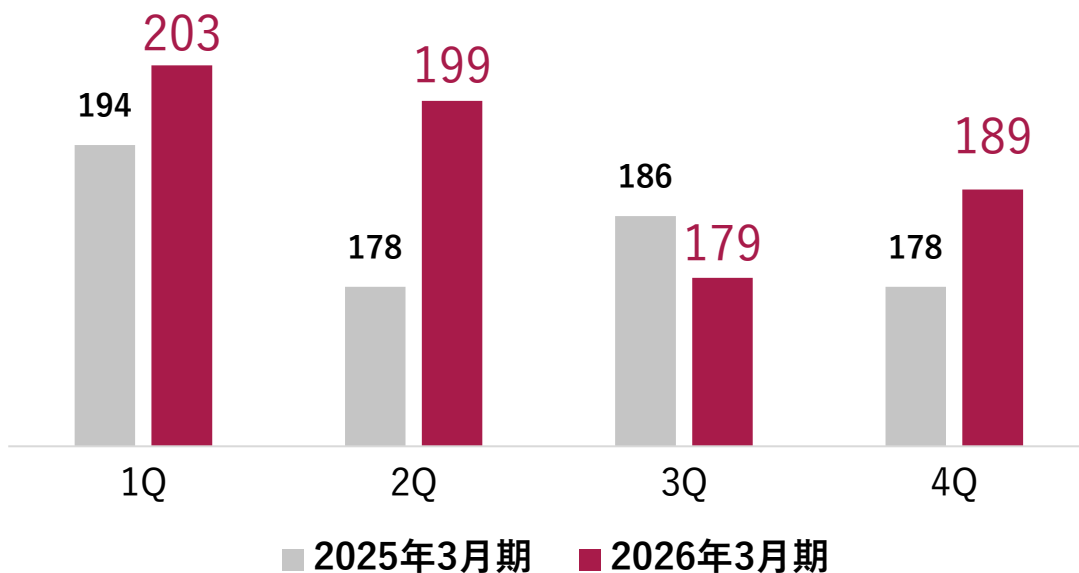
2026年3月期 通期業績 (地域別)

[単位：億円]		2025/3 実績	2026/3 実績	前期比	主な増減要因
日 本	売上高	736	770	+34	<ul style="list-style-type: none"> ● 飲料関連が堅調に推移 ● 医薬品中間体の米国子会社向け輸出の減少により売上総利益が減少
	営業利益	45	6	△ 39	
米 州	売上高	665	556	△ 110	<ul style="list-style-type: none"> ● 米国子会社でフレーバー・フレグランス・ファインケミカルの出荷が減少
	営業利益	26	9	△ 17	
欧 州	売上高	393	424	+31	<ul style="list-style-type: none"> ● フレーバー、アロマイングリディエントは堅調 ● フランス子会社で新基幹システム導入に伴う出荷調整によりフレグランスの出荷が減少
	営業利益	25	8	△ 17	
ア ジ ア	売上高	498	502	+4	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国で飲料関連、ファブリックケアの出荷増加 ● 東南アジアでは原材料最適化により売上総利益が改善
	営業利益	49	57	+7	
調 整	売上高	-	-	-	
	営業利益	9	2	△ 7	
合 計	売上高	2,292	2,251	△ 41	
	営業利益	153	81	△ 72	

地域別（日本）

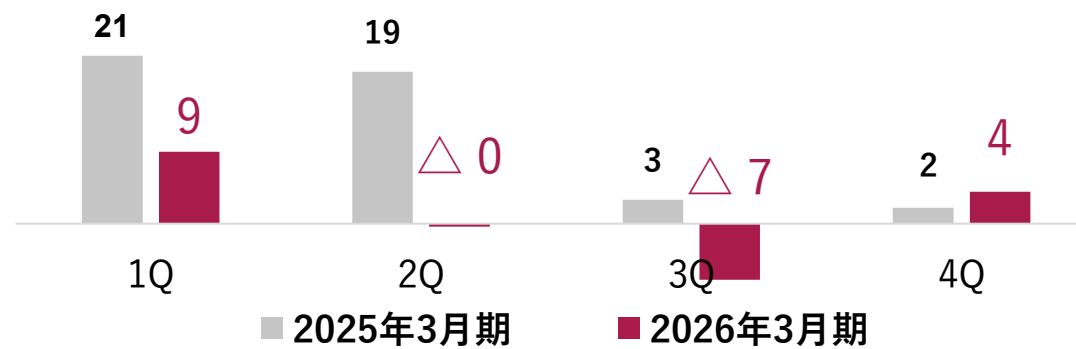
売上高

[単位：億円]



営業利益

[単位：億円]



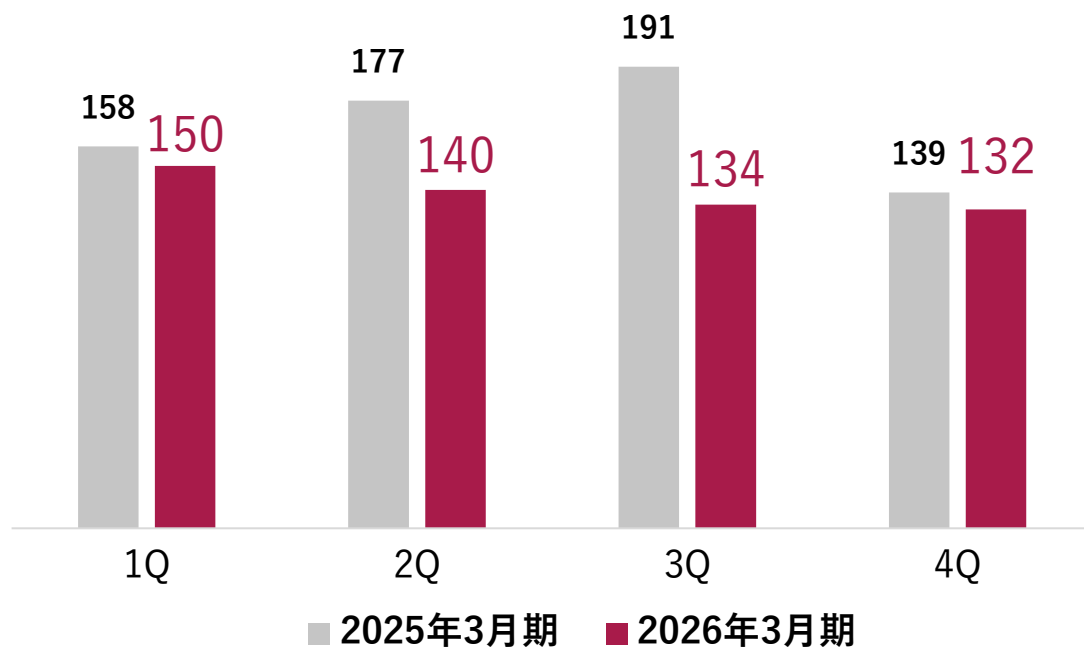
四半期 推移 コメント

1Q・2Q：夏場需要を背景に、飲料向けフレーバーが好調に推移し増収基調。
 一方、ファインケミカルの出荷延期により利益は抑制。
 3Q：ファインケミカルは出荷延期継続、フレーバーの季節要因剥落により売上・利益ともに低調に推移。
 4Q：ファインケミカルの出荷再開およびフレーバー・アロマの増収により回復。

地域別（米州）

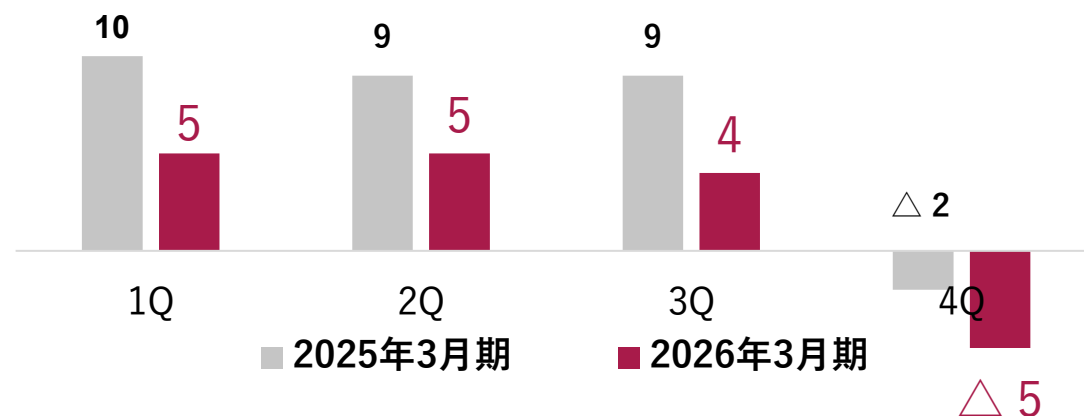
売上高

[単位：億円]



営業利益

[単位：億円]



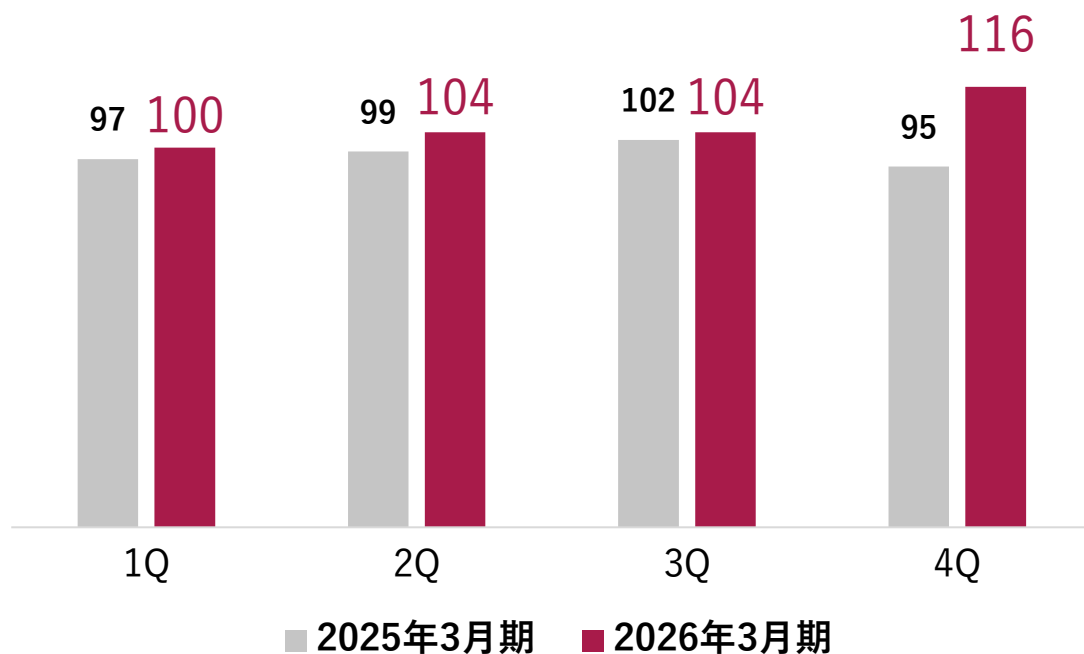
四半期 推移 コメント

1Q・2Q：ファインケミカルの出荷延期およびフレーバー減少により減収・減益基調。
3Q：同影響が継続し、売上・利益ともに低調に推移。
4Q：ファインケミカルの持ち直しが見られるものの、フレーバー減少の影響が継続し、営業利益は赤字に転落。

地域別（欧州）

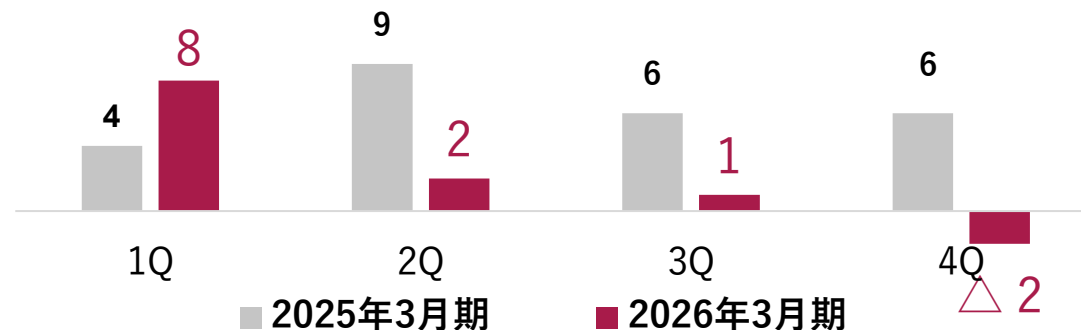
売上高

[単位：億円]



営業利益

[単位：億円]



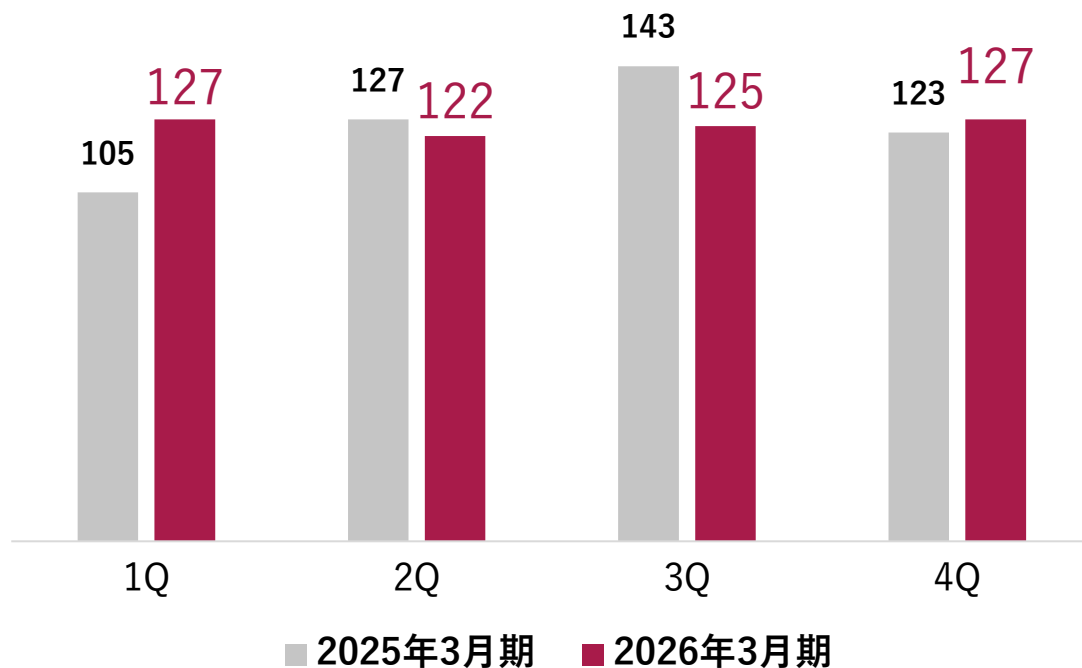
四半期 推移 コメント

1Q・2Q：全セグメントで売上は堅調に推移。
一方、新基幹システム導入に伴うコスト増により2Qの利益は減少。
3Q：同影響が継続し、収益性は低下基調。
4Q：売上堅調もコスト負担が継続し、営業赤字に転落。

地域別（アジア）

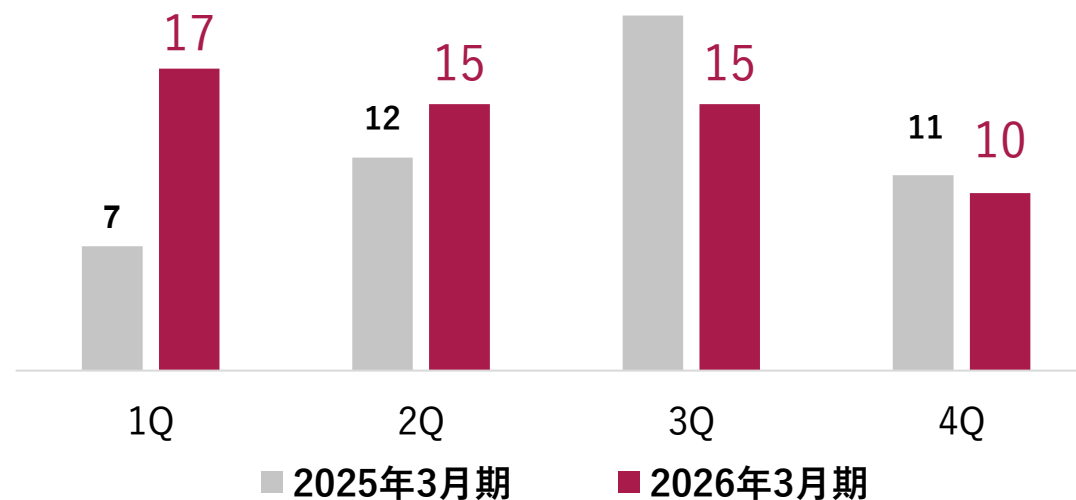
売上高

[単位：億円]



営業利益

[単位：億円]



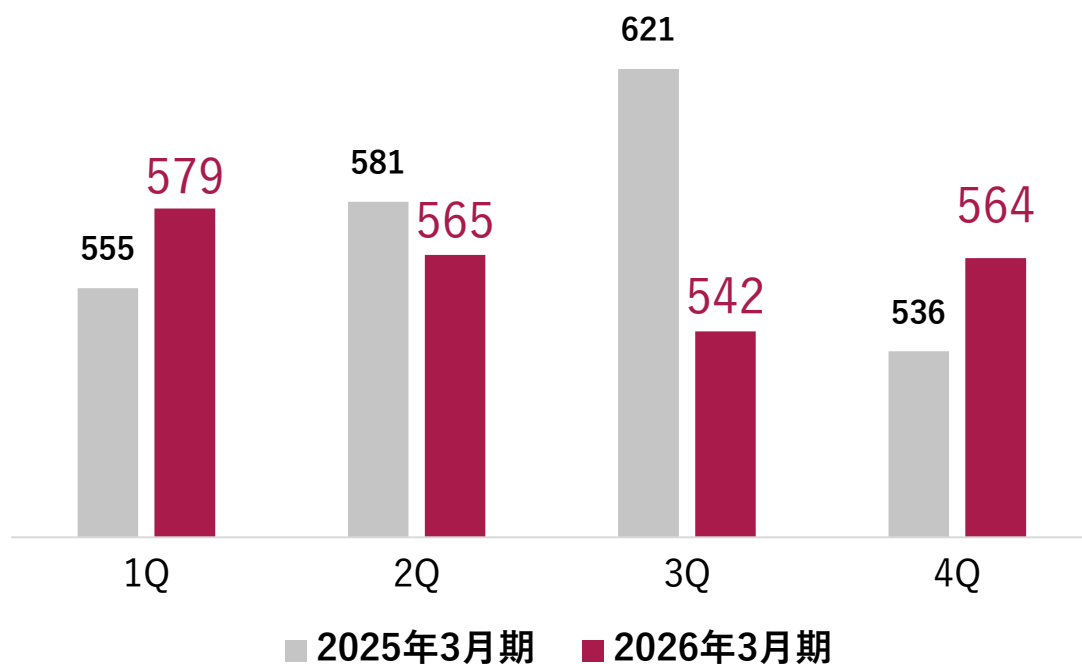
四半期 推移 コメント

1Q・2Q：中国を中心に概ね堅調に推移し、安定した利益水準を確保。
3Q：前年の顧客在庫調整一巡後の好業績への反動に加え、フレーバーの減収により売上・利益ともに低下。
4Q：前年同期並みの水準で推移。通期では中国での増収や収益改善により、増収・増益を確保。

四半期決算推移

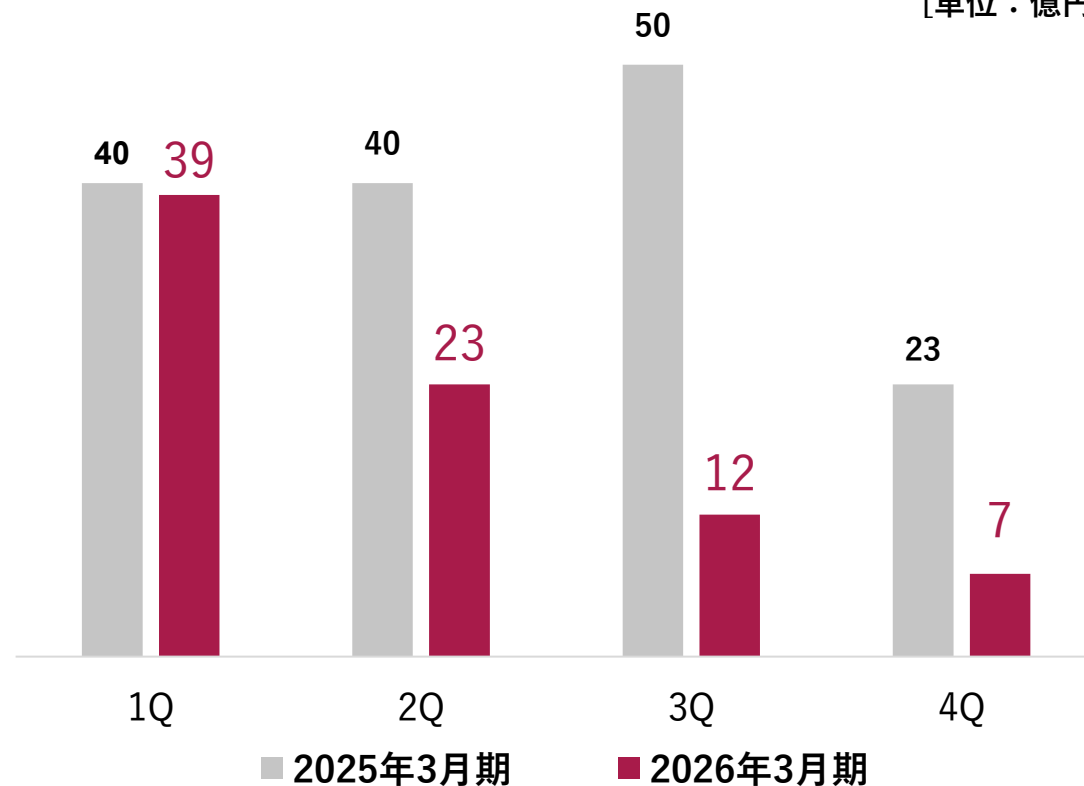
売上高

[単位：億円]



営業利益

[単位：億円]



四半期 推移 コメント

1Q：日本・アジアのフレーバーおよびアロマイングリディエントが堅調に推移。
 2Q：米州のファインケミカル出荷延期および欧州のコスト増により減収・減益。
 3Q：ファインケミカルの出荷延期継続に加え、欧州のコスト負担増により売上・利益ともに低下。
 4Q：売上回復も、米州・欧州の影響により利益回復は限定的。

2026年3月期 通期業績 (事業別)

		2025/3 実績	2026/3 実績	前期比	主な増減要因
フレーバー	売上高	1,198	1,226	+28	● 日本、中国で飲料関連の出荷が増加
	営業利益	52	52	△ 0	
フレグランス	売上高	745	758	+13	● 中国でファブリックケア向けの出荷が増加 ● フランス子会社で新基幹システムに係る償却費等の販管費が増加
	営業利益	20	6	△ 15	
アロマイング リディエント	売上高	157	162	+5	● スペシャルティ品の出荷が堅調に推移 ● 原材料価格の上昇等により減益
	営業利益	26	20	△ 5	
ファインケミ カル	売上高	178	91	△ 87	● 主要得意先との間で品質管理体制の高度化対応を行っており、海外医薬品中間体の出荷が延期
	営業利益	44	△ 8	△ 52	
その他	売上高	14	14	△ 0	
	営業利益	12	12	△ 0	
合計	売上高	2,292	2,251	△ 41	
	営業利益	153	81	△ 72	

2026年3月期 通期実績（単体 事業別）

[単位：億円]		2025/3 実績	2026/3 実績	増減額	主な増減要因
フ レ ー バ ー	売上高	433	457	+23	<ul style="list-style-type: none"> ● 飲料向けを中心に増収 ● 高付加価値の新規採用品が増加
	営業利益	△11	2	+14	
フ レ グ ラ ン ス	売上高	88	87	△ 1	<ul style="list-style-type: none"> ● 輸入原材料費の上昇、販管費増加により減益
	営業利益	△8	△13	△ 6	
ア ロ マ イ ン グ リ デ ィ エ ン ツ	売上高	120	123	+2	<ul style="list-style-type: none"> ● 売上は堅調に推移 ● 主要原材料の価格上昇により売上総利益率が低下
	営業利益	18	11	△ 7	
フ ザ イ ン ケ ミ ル カ	売上高	157	93	△ 64	<ul style="list-style-type: none"> ● 主要得意先との間で品質管理体制の高度化対応を行い、海外医薬品中間体の出荷が延期
	営業利益	28	△10	△ 39	
そ の 他	売上高	18	18	+0	
	営業利益	12	12	△ 0	
合 計	売上高	816	777	△ 39	
	営業利益	39	1	△ 38	

III. 2027年3月期 通期業績予想

為替の前提、感応度

為替の前提

	2026/3 通期実績	2027/3 通期予想	前期比
USD	150円	150円	±0円
EUR	169円	170円	+1円

為替の感応度 (1円円高/円安のケース)

	売上高に対する影響	営業利益に対する影響
USD	約5億円減収/増収	約16百万円減益/増益
EUR	約3億円減収/増収	約5百万円減益/増益

2027年3月期 通期業績予想

[単位：億円]	2026/3 実績	2027/3 予想	前期比
売上高	2,251	2,400	+6.6%
売上総利益	729	801	+9.9%
売上総利益率	32.4%	33.4%	+1.0P
販売管理費	648	691	+6.7%
販売管理費率	28.8%	28.8%	+0.0P
営業利益	81	110	+35.3%
営業利益率	3.6%	4.6%	+1.0P
経常利益	95	115	+20.9%
経常利益率	4.2%	4.8%	+0.6P
親会社株主に属する 当期純利益	95	94	△ 1.3%
純利益率	4.2%	3.9%	△ 0.3P
期中平均為替レート USD	150	150	+0.2%
期中平均為替レート EUR	169	170	+0.6%

主な増減要因

売上高

- 2,400億円(+6.6%)
 - 欧米向け医薬品中間体の出荷が増加
 - 米州でヘアケア、ホームケア向けフレグランスや新興国向けのフレーバーが増収

営業利益

- 110億円(+35.3%)
 - 米州、アジアの増収により売上総利益が増加

経常利益

- 115億円(+20.9%)
 - 営業利益増加に伴い増加
 - 外貨建債権の評価替えに係る為替差益は前期比減少

当期純利益

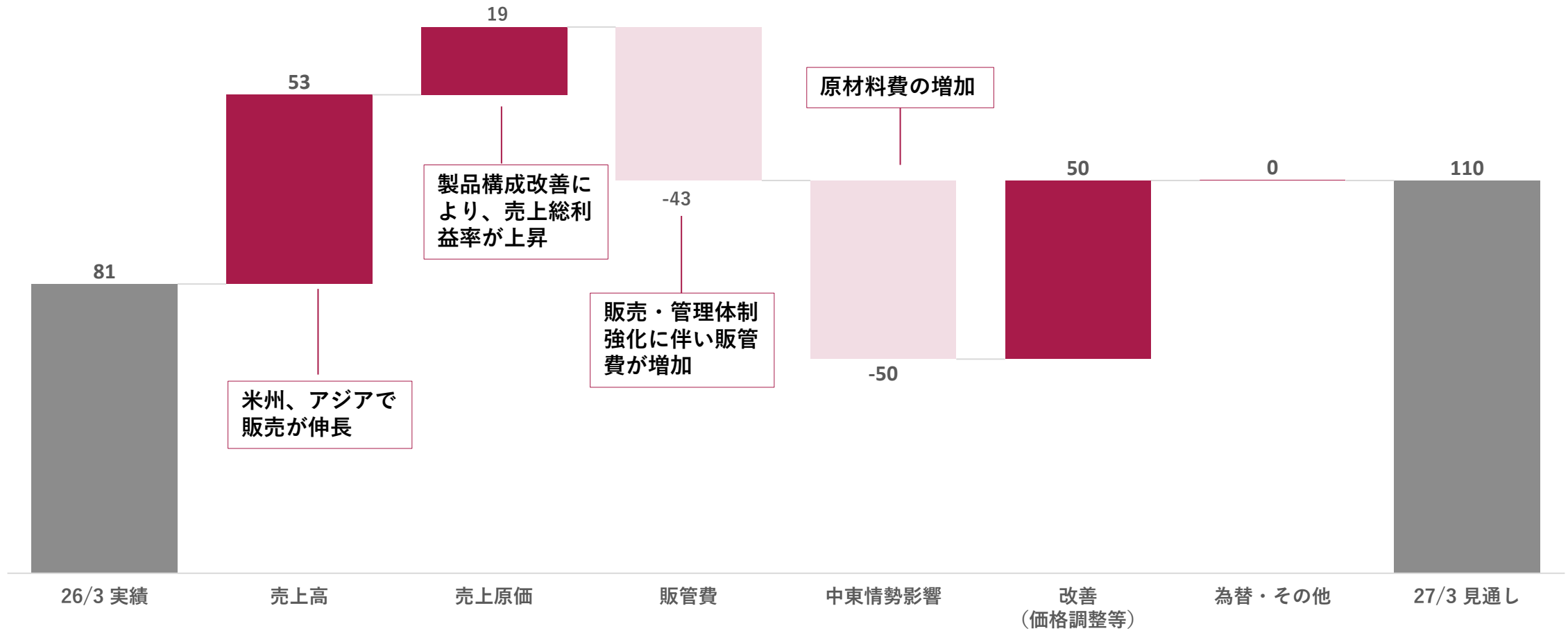
- 94億円(△1.3%)
 - 投資有価証券売却益は前期比で減少

2027年3月期 通期見通し 営業利益増減分析

[単位：億円]

増益

減益



※営業利益増減分析のうち、売上高・売上原価・販管費は同一の為替レート（前期実績）を適用して影響額を計算している

2027年3月期 通期見通し (地域別)

[単位：億円]		2026/3 実績	2027/3 予想	増減額	主な増減要因
日 本	売上高	770	775	+5	<ul style="list-style-type: none"> ● 飲料関連の出荷が増加 ● 医薬品中間体の米国子会社向け輸出の増加により売上総利益が増加
	営業利益	6	20	+14	
米 州	売上高	556	652	+96	<ul style="list-style-type: none"> ● 欧米向け医薬品中間体の出荷が増加 ● 米国で飲料関連フレーバー、ホームケア向け等フレグランスが増収
	営業利益	9	26	+17	
欧 州	売上高	424	429	+5	<ul style="list-style-type: none"> ● フレーバー・アロマイングリディエントは堅調に推移 ● ドイツ子会社で新基幹システム導入に伴い販管費が増加
	営業利益	8	1	△ 7	
ア ジ ア	売上高	502	544	+42	<ul style="list-style-type: none"> ● 東南アジア・インドにおいてフレーバー、フレグランスが伸長 ● 中国で飲料関連、ファブリックケアの出荷が増加
	営業利益	57	62	+5	
調 整	売上高	-	-	-	
	営業利益	2	-	△ 2	
合 計	売上高	2,251	2,400	+149	
	営業利益	81	110	+29	

2027年3月期 通期見通し (事業別)

[単位：億円]		2026/3 実績	2027/3 予想	増減額	主な増減要因
フ レ ー バ ー	売上高	1,226	1,260	+33	<ul style="list-style-type: none"> ● 飲料、セイボリー、オーラルケアを中心に新興国向けの売上が増加 ● ドイツ子会社で新基幹システム導入に伴い販管費が増加
	営業利益	52	51	△1	
フ レ グ ラ ン ス	売上高	758	791	+33	<ul style="list-style-type: none"> ● エアケア、ホームケア、ファインフレグランス向けが増収 ● 原料最適化により売上総利益率が上昇 ● 東南アジアでファブリックケア向け等が増収
	営業利益	6	26	+20	
ア ロ マ イ ン グ リ デ ィ エ ン ツ	売上高	162	165	+3	<ul style="list-style-type: none"> ● 売上は堅調に推移 ● 主要原材料の価格高騰により売上原価が増加
	営業利益	20	15	△5	
フ ァ イ ン ル ケ ミ カ ル	売上高	91	170	+79	<ul style="list-style-type: none"> ● 欧米向け医薬品中間体の出荷が増加
	営業利益	△8	6	+14	
そ の 他	売上高	14	14	+0	
	営業利益	12	12	+0	
合 計	売上高	2,251	2,400	+149	
	営業利益	81	110	+29	

設備投資・減価償却費・研究開発費

[単位：億円]

	2024/3	2025/3	2026/3	2027/3予想 (2026/5時点)
設備投資	105	118	217	140
減価償却費	79	81	88	90
研究開発費	157	177	175	190

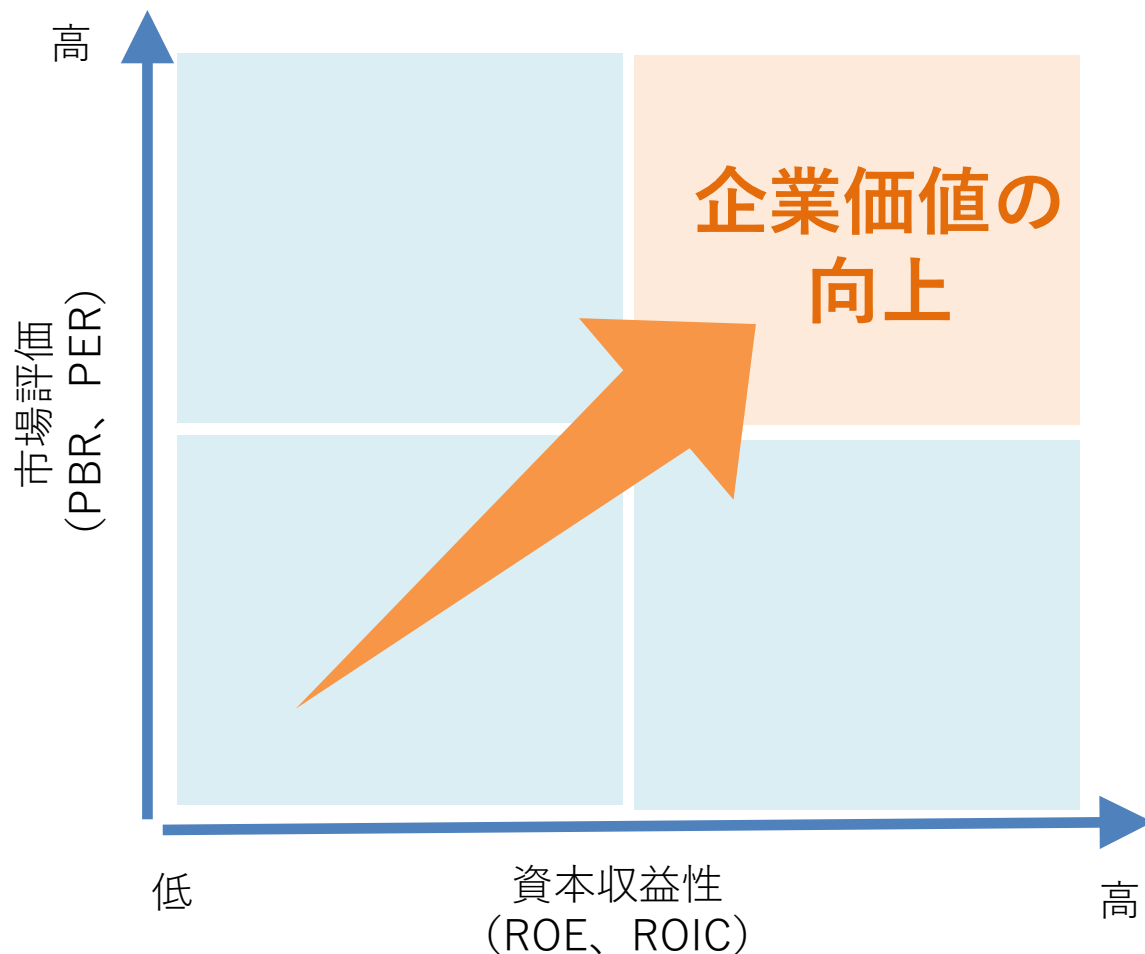
売上高 研究開発費率	8.0%	7.7%	7.8%	7.9%
---------------	------	------	------	------

主な変動 要因	設備投資	2027年3月期は、前期の鎌倉新研究所土地取得等の反動により減少
	減価償却費	主に海外拠点の新規投資により増加
	研究開発費	本社および海外拠点の体制強化により増加

※設備投資の予想額からは、引渡日が確定していない成長投資を除いている

IV. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

取組み方針（2024年3月27日 IR説明会 公表）



資本収益性の改善

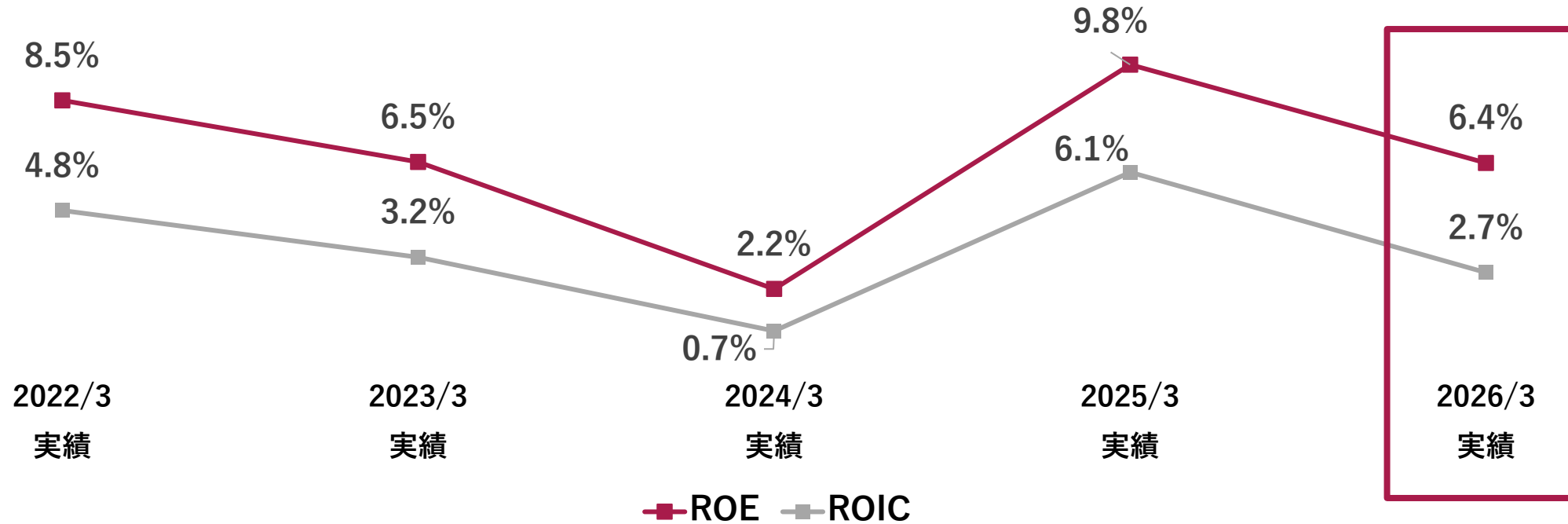
- NGP-2 方針・戦略の着実な実行
- 海外：事業軸での成長戦略、研究のグループ内連携などを通じ、市場の成長を取り込み利益の拡大
- 日本：製品ポートフォリオの最適化、新領域の開拓、費用の構造改革など、収益性を改善
- ROEの安定化
- キャッシュ創出力（EBITDA）の強化

市場評価の向上

- 収益性の改善による市場からの成長期待
- キャピタルアロケーションの開示
- 配当政策の強化
- 株主・投資家との対話

資本収益性に関する分析

[単位：億円]

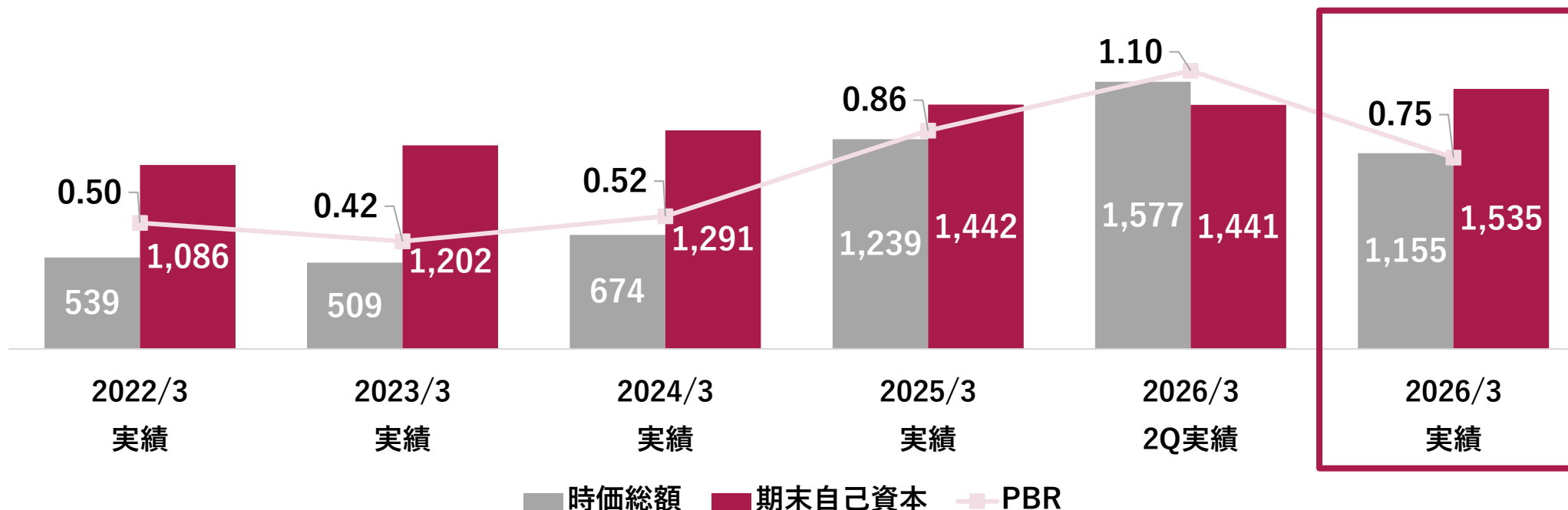


主な増減要因

- 2025年3月期は営業利益の増加に伴い、ROEは9.8%を記録し中計目標の8%を達成
- 2026年3月期は減収により営業利益が減少。
政策保有株式の一部売却を行ったが純利益は前年比で減少し、ROEは6.4%、ROICは2.7%に低下

市場評価に関する分析

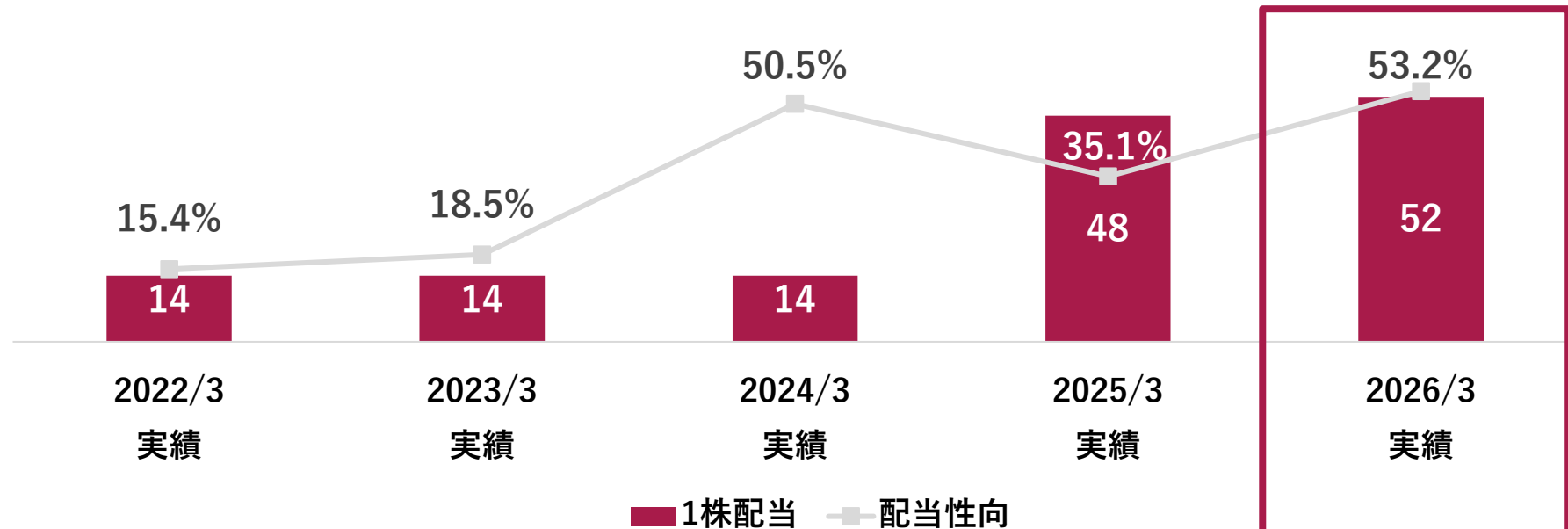
[単位：億円]



主な増減要因

- PBR：2026年3月期は、株価上昇に伴い2025年8月～2026年2月にかけてPBRが1倍超で推移したが、3月末には0.75倍に低下。稼ぐ力の向上、資本政策の高度化が引き続き課題
- 資本政策：DOEを基準にした配当政策、株式分割（1株⇒5株）、政策保有株式の売却を実施
- 開示情報：統合報告書（英語版）の公表開始、シェアードリサーチ社スポンサードレポート、四半期決算補足資料の公表など

株主還元



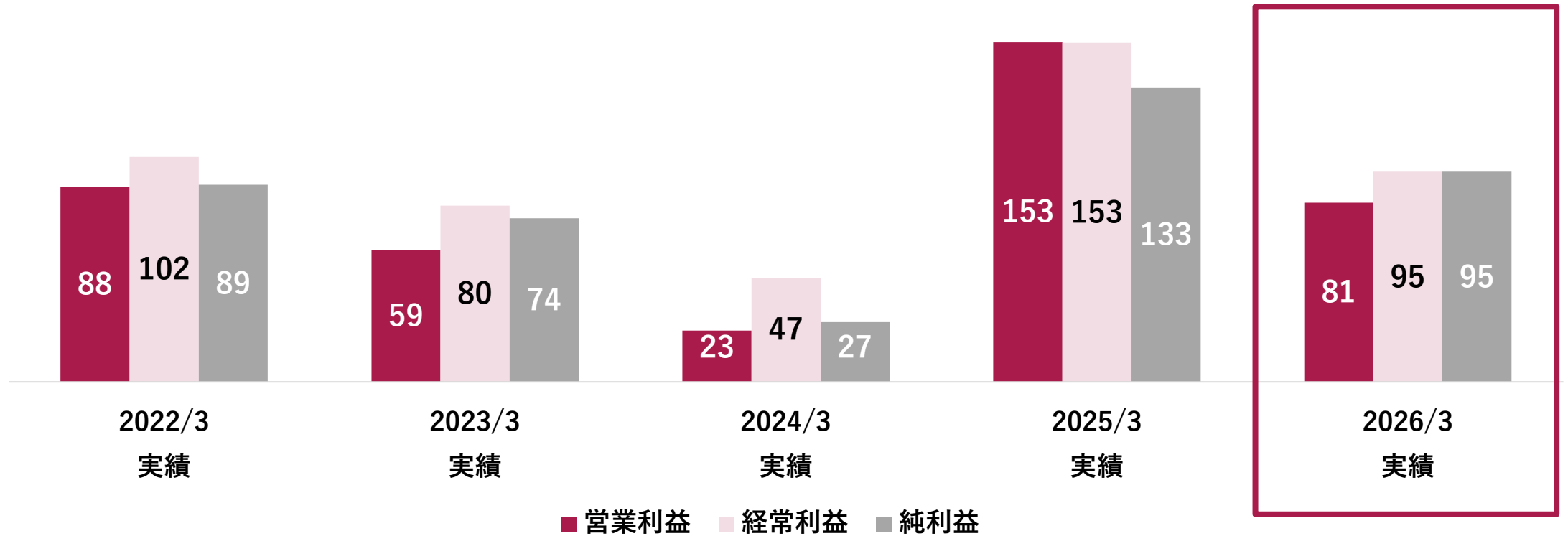
配当総額	14億円	14億円	14億円	47億円	51億円
DOE(%)	1.3	1.2	1.1	3.4	3.4

主な増減要因

- 中計期間においてDOE3.0%超えを最重要目標とし資本政策を実施
- 2026年3月期のDOEは3.4%、中計目標の3.0%を上回る
- 配当性向は53.2%、中計目標の30%を上回る
- 1株配当52円に増配（株式5分割後）

【連結】 段階利益

[単位：億円]

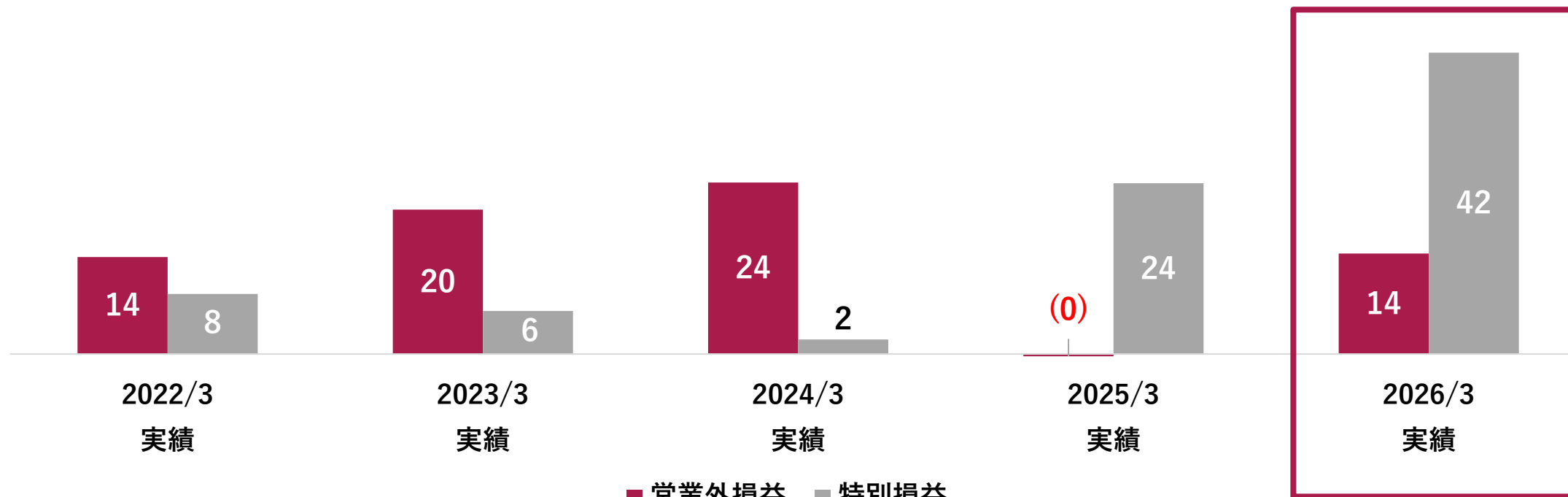


主な増減要因

- 2026年3月期の各段階利益は減益
- 各段階利益への主な影響項目
 - 経常利益：投資有価証券の受取配当金、外貨建て債権債務の為替換算評価替え影響
 - 特別利益：政策保有株式の売却

【連結】 営業外損益、特別損益

[単位：億円]



USD 122.4円

* 期末レートを記載

133.5円

151.4円

149.5円

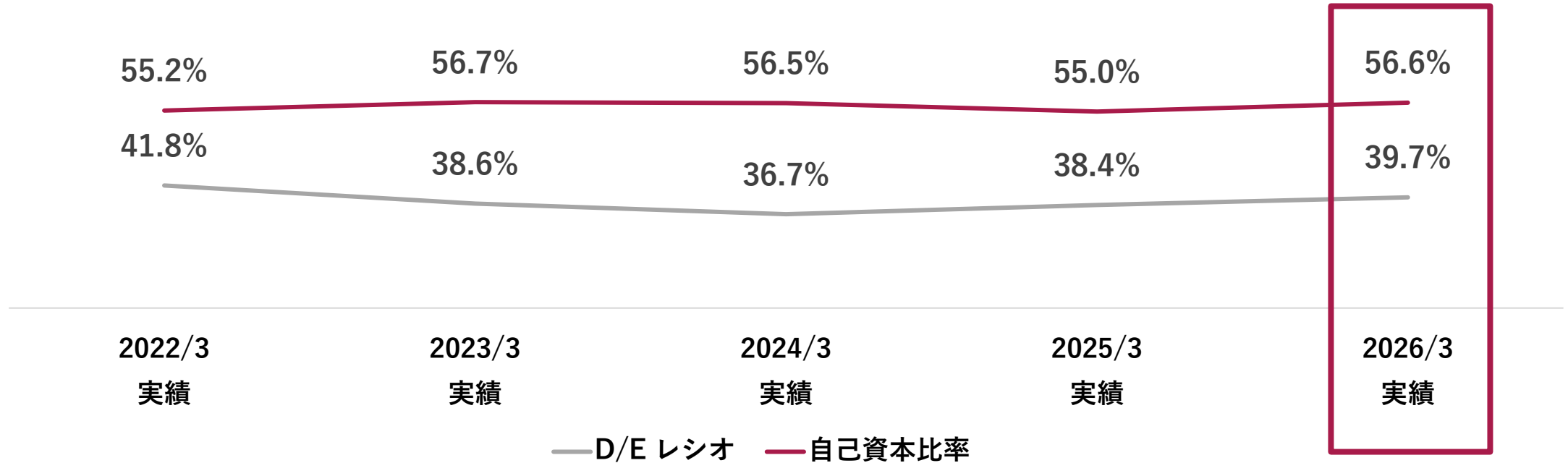
159.9円

主な増減要因

- 2026年3月期の営業外損益は、主に外貨建債権債務の期末評価替えに伴う為替差益
- 特別損益は、主に政策保有株式の売却益

【資本構成・資本効率化】D/Eレシオ、自己資本比率

[単位：億円]

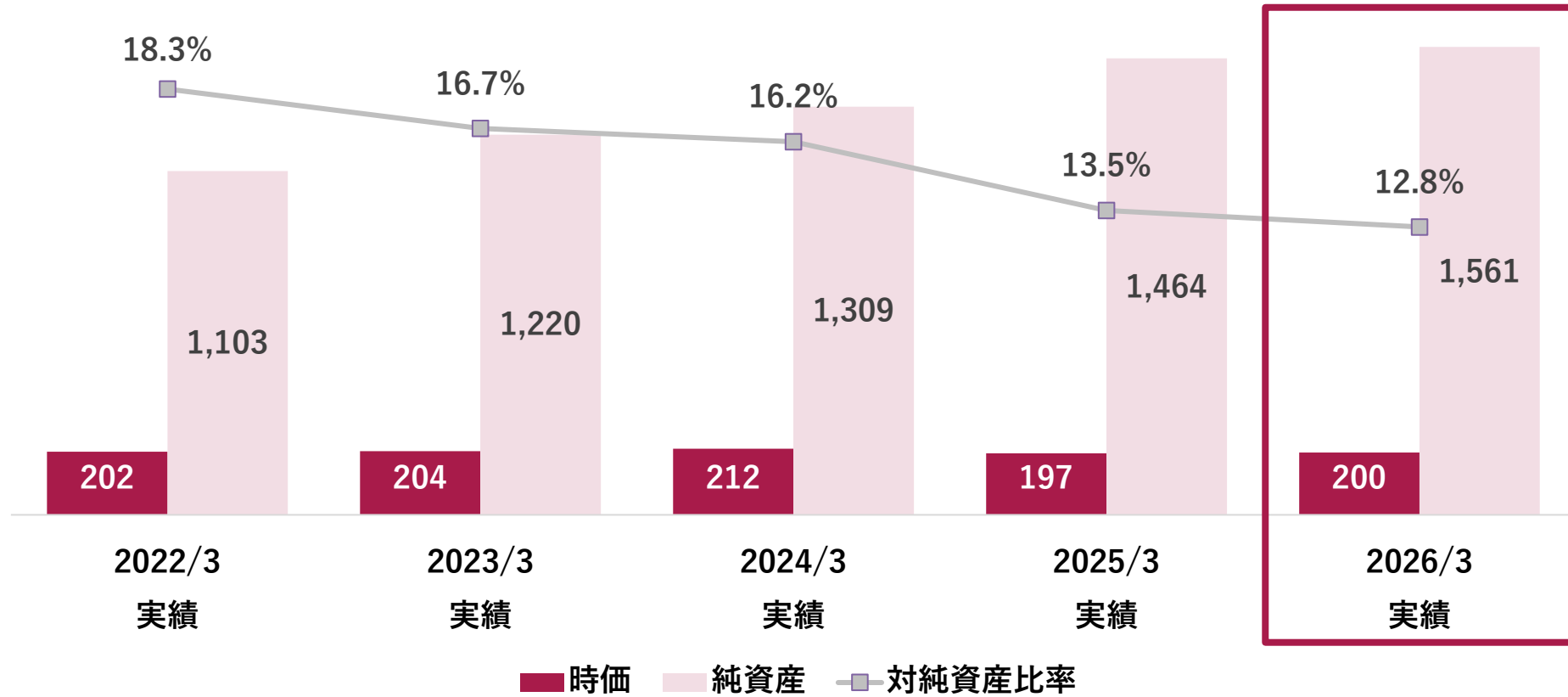


主な増減要因

- 自己資本比率は安定的に推移し、財務健全性を維持
- D/Eレシオは今後の成長投資に備え増加

【資本構成・資本効率化】政策保有株式

[単位：億円]



主な増減要因

- 政策保有株式については保有する合理性を検証し、2022年3月末の79銘柄、2025年3月末の68銘柄、2026年3月末には16銘柄まで縮減
- 2026年3月期は、保有株式の株価上昇に伴い、政策保有株式の時価が前期末に対し微増

【市場評価】NGP-2期間（3カ年）

キャピタルアロケーション

[単位:億円]

※赤字は2025年5月26日開催の決算説明会からの変更箇所

- 海外での売上拡大による利益の増加
- 日本での収益性改善施策推進により利益率の改善
- 成長投資による拡大

- 財務健全性を確保
- WACCと最適資本構成を意識
- 保有資産の流動化

収入 930	
営業CF	580 (△10) ・25年度業績見通しから純利益の減
財務CF	270 (△20)
投資CF	80 (+30) ・株式売却 ・不動産売却（駐車場等、26年3月契約締結）

支出 930	
成長投資（製造）	200 ・磐田工場 ・中国新工場 ・その他
成長投資（研究/管理）	180 (△20) ・鎌倉新研究所 ・その他
投資（一般設備）	220
株主還元（配当）	130 (+10)
その他	200 (+10) ・M&A等

- 資本コストを踏まえ、製造設備を強化
- 長期を見据えた研究開発強化
- 更新設備の効果的な実行

- 配当政策（DOE、配当性向）

- M&A投資等

- 営業CF、投資CFで得た資金を成長投資と株主還元へ割当て
- サステナブルな経営に向け財務健全性を確保

資本政策関連指標サマリー

	2025/3 実績	2026/3 実績	2027/3 予想	NGP-2 (25/3公表)
R O E	9.8%	6.4%	6.0%	8.0%～
自己資本比率	55.0%	56.6%	53.4%	55% (最終年度)
政策保有株式対 純資産比率	13.5%	12.8%	12.5%	10% (最終年度)
D O E	3.4%	3.4%	3.3%	3.0%～
配当性向	35.1%	53.2%	53.9%	30%～
1株配当	48円	52円	52円	48円～ (5分割後)

主な増減要因

ROE

- 2027年3月期の営業利益は増加するが、前年比で政策保有株式売却等の特別利益の反動減により、純利益は減少
- NGP-2期間3年平均では7.4%

自己資本比率

- 2027年3月期は成長投資に備えた借入増加により低下

DOE

- NGP-2期間を通じて中計目標3.0%を上回る

V. トピックス

第三者調査機関によるアナリストレポートのご紹介

株式会社シェアードリサーチアナリストレポート

- 外部アナリストによる中立的な企業評価レポートを当社IRサイトにて公開
- 当社の財務データや市場動向を詳細に調査し、投資家に対して企業や市場の現状を正確に伝えることを目的
- 当社の事業・戦略をより深くご理解いただくための参考情報としてご提供



URLリンク

高砂香料工業株式会社 | [Shared Research](#)



Together for Sustainability (TfS)

TfS参画と今後の取り組み

- 化学業界のESG国際イニシアチブTogether for Sustainability (TfS)に参画
- Scope3への対応を強化
- 顧客からのESG要求への対応力向上



URLリンク
[ホームページ - TFS Initiative](#)



蘭奢待の香りの再現プロジェクト

蘭奢待 (らんじゃたい)

- 日本を代表する香木「蘭奢待」の香りの再現に挑戦
- 宮内庁正倉院事務所からの依頼を受け、当社研究所にて「蘭奢待」の香気分析を実施
- 香気分析結果をもとに、当社調香師が「蘭奢待」の香りを再現
- 正倉院「THE SHOW」展にて展示公開

➡ 当社の技術力を活かした価値創造の一例

これからも当社は「香りを原点とする革新的な技術を通して、新しい価値を創造し続ける」という企業理念のもと、あゆみを進めて参ります。



URLリンク
[正倉院 THE SHOW](#)



Move Forward



本日は、ありがとうございました。

※注意事項

本資料は、2026年5月25日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

VI. Appendix

創業精神・企業理念・Vision 2040

創業精神

技術立脚の精神に則り社会に貢献する

企業理念

香りを原点とする革新的な技術を通して、
新しい価値を創造し続ける

Vision 2040

人にやさしく、環境にやさしく

1. 多様な価値観を尊重する
2. 自然と共生し、人々の生活に彩りを与える
3. 夢と誇りを持って未知の世界へ挑戦する
4. 常に高い技術を追求する、かけがえのない会社

Vision 2040





NGP-2

基本方針	海外の成長	国内の収益改善	サステナブルな経営
Key Success Factors	<ul style="list-style-type: none"> 事業軸の成長戦略 新規顧客の開拓 売上総利益の拡大 海外サプライチェーンの最適化 先端科学による競争力のある技術の創成 	<ul style="list-style-type: none"> 売上総利益の最適化 費用の構造改革 新領域の開拓 フレーバー・フレグランス製品生産効率性の追求 合成事業生産体制の再構築 国内サプライチェーンの最適化 先端科学による競争力のある技術の創成 	<ul style="list-style-type: none"> Sustainability2030の実行 コーポレート基盤の強化 人的資本の価値最大化 業務遂行力の向上 SDGsへの貢献を意識した製品の開発

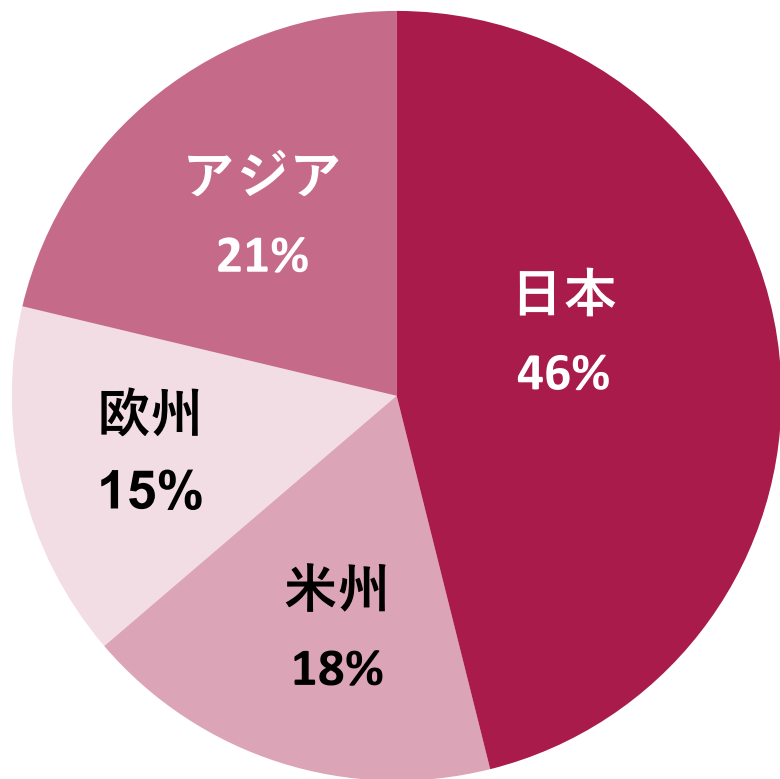
各事業の特徴

	フレーバー	フレグランス	アロマ イングredients	ファイン ケミカル
製品用途	飲料、製菓、スープ、 デザート等食品全般	衣料用洗剤・柔軟剤、 化粧品、芳香剤等	香料の原料 (フレーバー、 フレグランス)	医薬品中間体、 機能性材料、触媒、 農薬中間体
主要顧客	食品メーカー	日用品メーカー 化粧品メーカー	同業他社、自社使用	医薬品メーカー 電機電子メーカー
競合先	香料会社(同業)等	香料会社(同業)等	香料・化学メーカー、 天然品市場(メントール)	化学メーカー等

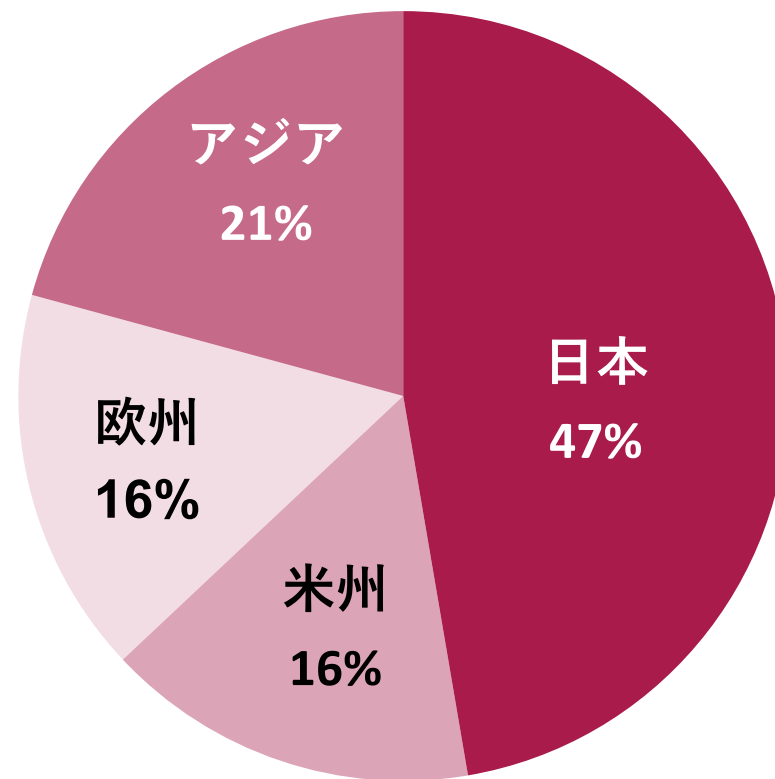
4つの事業の成長

事業	方針、施策
<p>フレーバー</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 事業戦略や設備・研究投資を通じて、新規顧客の獲得や新興国でのビジネス拡大 製品ポートフォリオ適正化により、収益性の改善 各地域でのニーズを満たす素材/製品開発とグローバル連携による競争力を強化
<p>フレグランス</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 人的/技術のグループ内連携や設備・研究投資を通じて、パーソナルケアに注力 東南アジア、中南米、インドなど新興国でのビジネスを拡大 原材料費や製造経費におけるマネジメント力を強化推進 事業基盤の強化（人材、R&D、Consumer Insights & Market Research）
<p>アロマ イングリエィエンツ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 農産業分野などの新領域、新興国での既存ビジネス拡大 付加価値の高いスペシャリティ製品の拡充により収益性の改善 生分解性やバイオベース値などに配慮し、環境にやさしい新規品の開発
<p>ファインケミカル</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品中間体カテゴリーの拡大 新工場設備稼働による製品供給能力の強化 触媒技術や連続フロー技術の深化により競争力の向上

フレーバー事業 地域別 売上実績

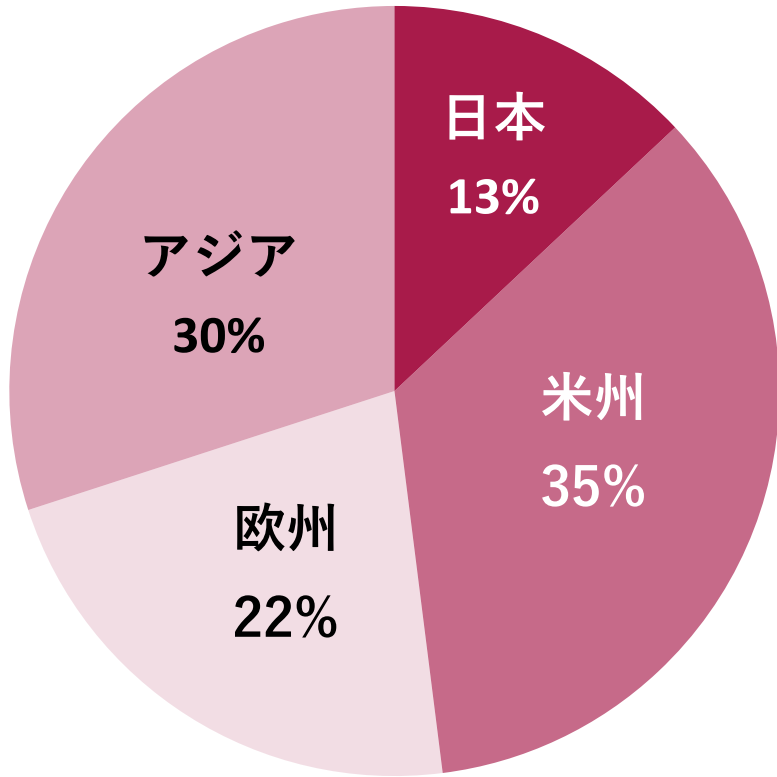


2025年3月期

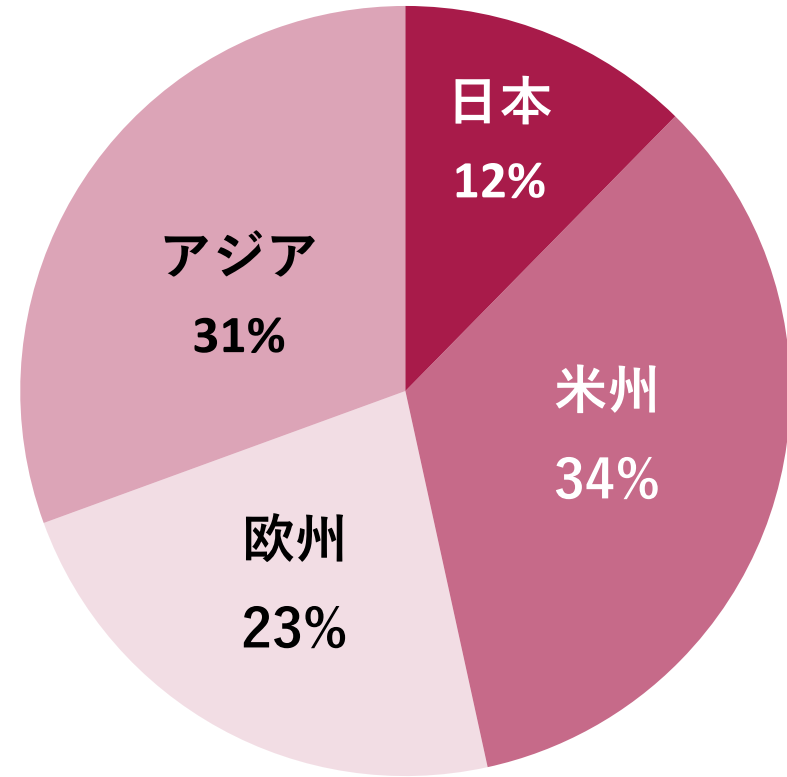


2026年3月期

フレグランス事業 地域別 売上実績

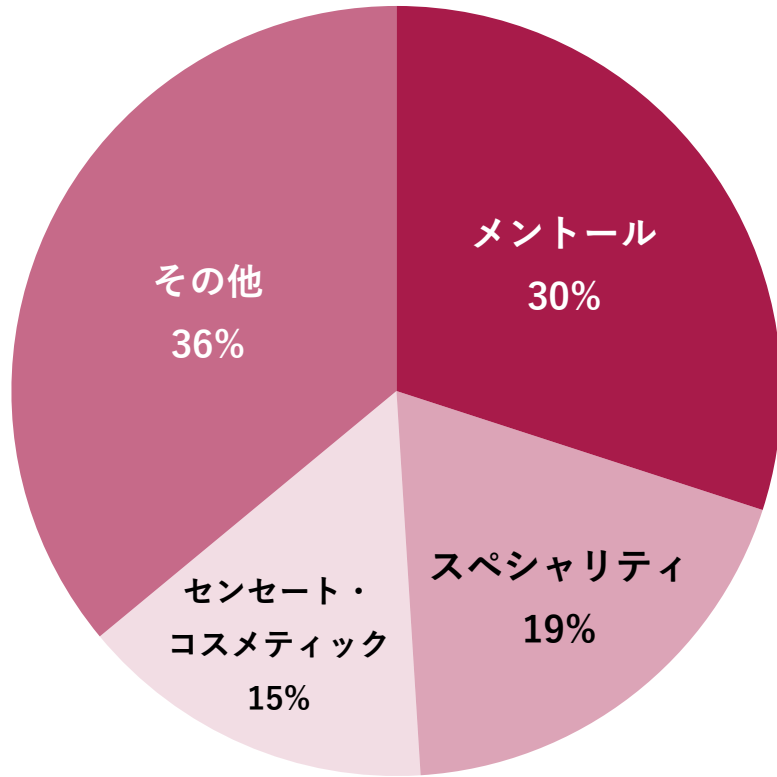


2025年3月期

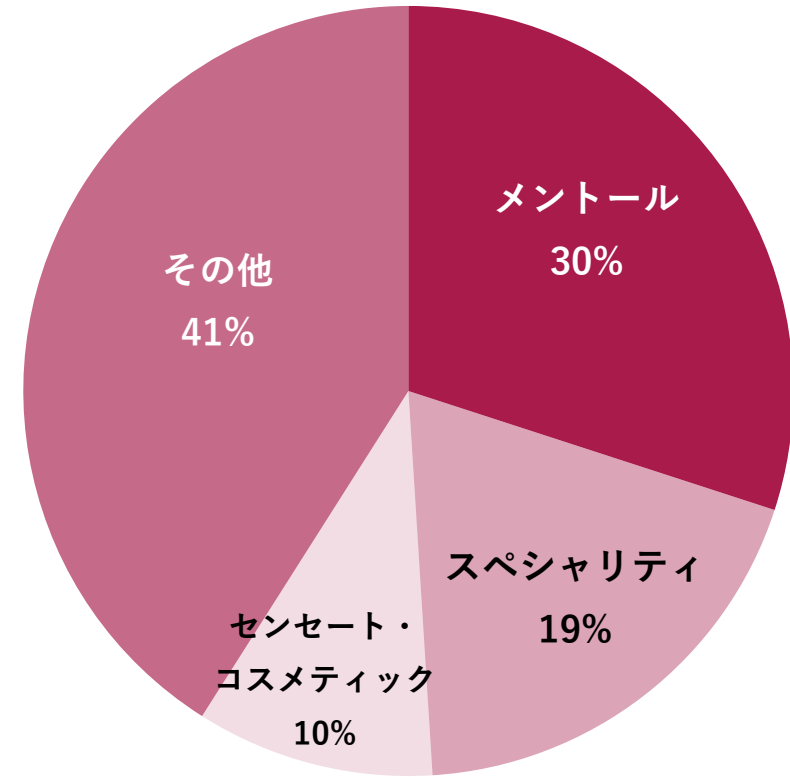


2026年3月期

アロマイングリディエント事業 カテゴリ別 売上実績

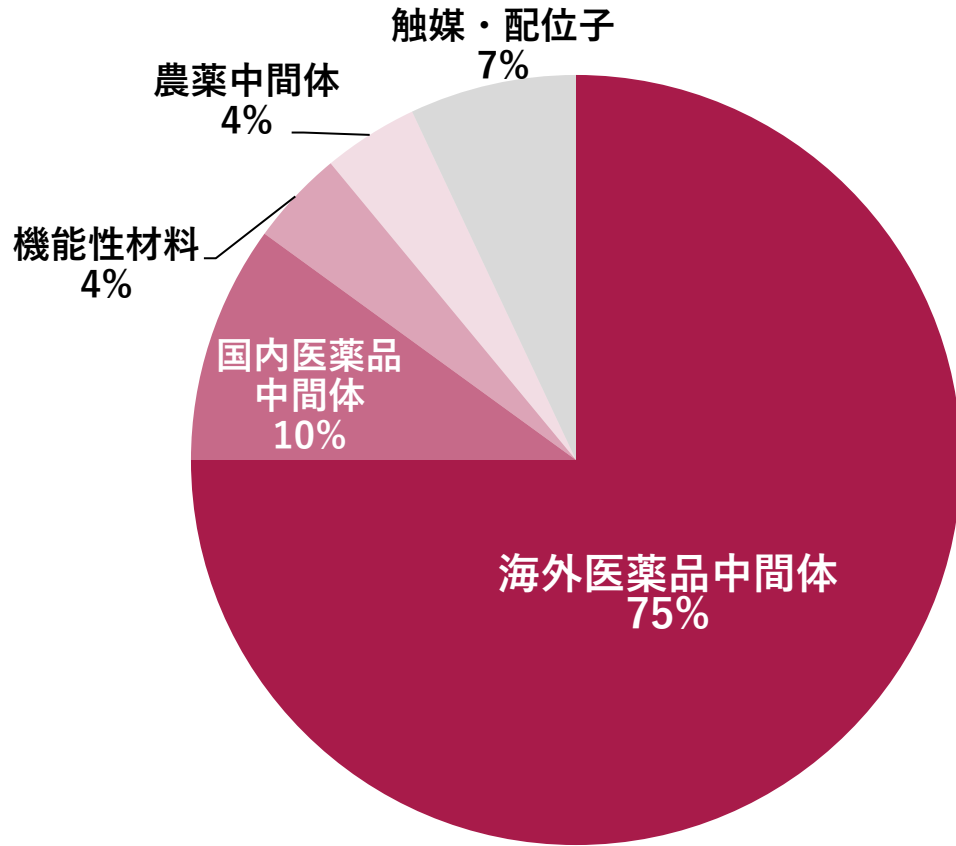


2025年3月期

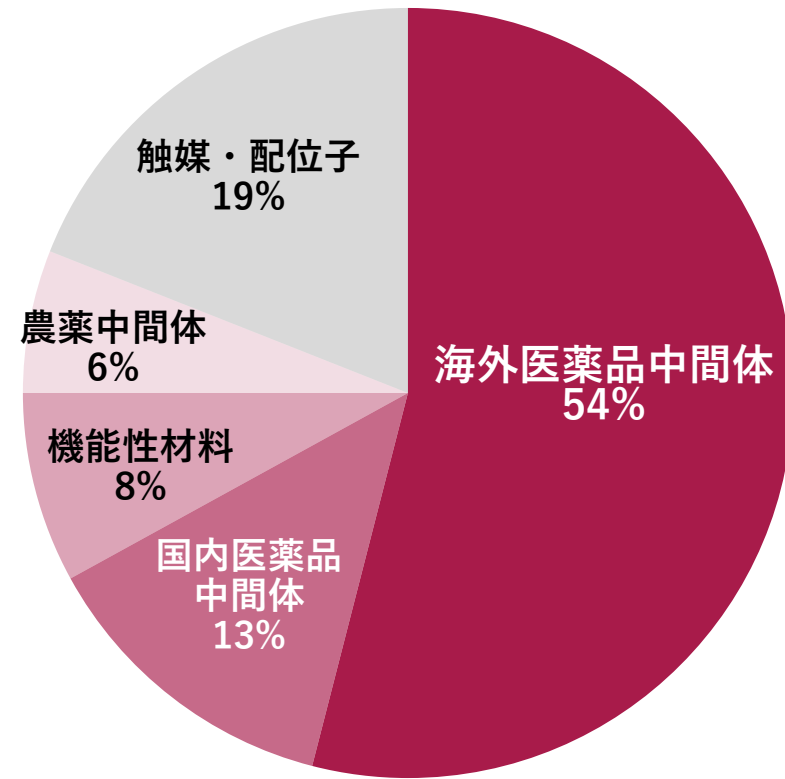


2026年3月期

ファインケミカル事業 カテゴリ別 売上実績



2025年3月期



2026年3月期